●一年生雑草、多年生雑草の強害草を選択的に除草します。

除草剤

農林水産省登録第 12006 号
性状：黄褐色液体
毒性：普通物*
有効年限：5 年
包装：500mℓ×20、2L×6
＊は毒劇物に該当しないものを指していう通称

アージラン液剤

（アシュラム液剤）

有効成分：N′−メトキシカルボニルスルファニルアミドナトリウム…37.0％

特長

●メヒシバ、タデなどの一年生雑草の発生前から生育初期まで、優れた除草効果を示します。
●セイタカアワダチソウ、チガヤ、スギナなどの強害草の生育期に使用して、それらを選択的に除草することができます。
●さとうきびの生育期に使用して、一般の雑草のほかタチスズメノヒエ、ギシギシ、ヨモギ、タチアワユキセンダングサ、ムラサキカタバミなどの強害草を選択的に防除できます。
●哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類、微生物などへの影響が少ない除草剤です。
●分解が早く、土壌中での残留はほとんどありません。

適用雑草と使用方法

平成 21 年 5 月現在の登録内容

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10 アール当り		使用方法	本剤及びアシュラムを含む農薬の総使用回数	適用地帯
				薬量又は希釈倍数	使用液量			
牧草	牧野、草地	ギシギシ類及びキク科の雑草	秋期 経年草地のギシギシ類の栄養生長期	300〜400mℓ	80〜100ℓ	雑草茎葉散布	1 回	北海道
			春期 経年草地のギシギシ類の栄養生長期（採草 14 日前まで）	200〜300mℓ				
			秋期 新播草地のギシギシ類の栄養生長期					

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10アール当り 薬量又は希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用方法	本剤及びアシュラムを含む農薬の総使用回数	適用地帯
牧草	牧野、草地	ギシギシ類及びキク科の雑草	秋～春期（9～5月）ギシギシ類の展葉時期（採草14日前まで）	400～600mℓ	80～100ℓ	雑草茎葉散布	1回	北海道を除く全域
			早春～秋期（1～11月）ギシギシ類の展葉時期	50～80倍液とし雑草が充分ぬれる量	1株当り25mℓ又は1m^{2}当り100mℓ	雑草茎葉散布（局所処理）		—
	牧野、草地（更新・造成）	ワラビ	ワラビ展葉期	1000～1500mℓ	80～100ℓ	雑草茎葉散布		
ほうれんそう	—	一年生雑草	は種後～子葉展開期	秋まき600～800mℓ 春～初夏まき800～1000mℓ 但し、芽出しまきは800mℓ	100～200ℓ	全面土壌散布		
水田作物（水田畦畔）	水田畦畔	一年生雑草、キク科、タデ科の多年生雑草	雑草生育期	1500～3000mℓ		雑草茎葉散布（全面処理又は局所処理）	3回以内	近畿以西
しそ	—	一年生雑草	生育期（本葉2～3葉期）但し収穫45日前まで	500mℓ	100ℓ	雑草茎葉散布	1回	—
おかひじき			は種直後	600mℓ	100～150ℓ	全面土壌散布		
さとうきび（株出、春植え、夏植え）		一年生及び多年生雑草	雑草生育初期（草丈10～15cm）	800～1000mℓ	150～200ℓ	雑草茎葉散布	2回以内	

<table>
<tr><th rowspan="2">作物名</th><th rowspan="2">適用場所</th><th rowspan="2">適用雑草名</th><th rowspan="2">使用時期</th><th colspan="2">10 アール当り</th><th rowspan="2">使用方法</th><th rowspan="2">本剤及びアシュラムを含む農薬の総使用回数</th><th rowspan="2">適用地帯</th></tr>
<tr><th>薬量又は希釈倍数</th><th>使用液量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">桑</td><td rowspan="5">—</td><td>一年生雑草、キク科、タデ科の多年生雑草</td><td>桑発芽前又は桑刈取直後</td><td>750mℓ</td><td>100～150ℓ</td><td>全面土壌散布</td><td rowspan="2">4 回以内</td><td rowspan="8">—</td></tr>
<tr><td>キク科、ヒルガオ科、タデ科の多年生雑草</td><td>雑草生育期</td><td>30～50 倍</td><td>1m^2 当り約 100mℓ</td><td rowspan="2">雑草茎葉散布（局所処理）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">すぎ（下刈り）</td><td>ススキ</td><td>6 月</td><td rowspan="3">20 倍</td><td>300mℓ/株径 30cm の株</td><td rowspan="6">3 回以内</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アレチノギク、カラムシ、シシウド等の大型雑草</td><td rowspan="2">雑草発生期</td><td rowspan="2">60ℓ</td><td rowspan="3">雑草茎葉散布</td></tr>
<tr><td>クズ</td><td>6～7 月</td><td>10 倍</td><td>50ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">樹木等</td><td rowspan="4">公園
庭園
堤とう
駐車場
道路
運動場
宅地、のり面等</td><td>一年生雑草</td><td rowspan="4">雑草生育期</td><td>1000～2000mℓ</td><td rowspan="4">100～200ℓ</td><td rowspan="4">植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布</td></tr>
<tr><td>多年生広葉雑草</td><td>2000～3000mℓ</td></tr>
<tr><td>多年生イネ科雑草</td><td>3000～5000mℓ</td></tr>
<tr><td>クズ</td><td>5000mℓ</td></tr>
</table>

効果・薬害等の注意

- 雑草の発生程度により許容薬量内で使用量を増減する。
- 吸収・移行性が高い剤であるが、局所散布及び群生地散布は必要に応じて展着剤を加用し、よく付着するように十分散布する。
- 局所散布または群生地散布は所定薬量内で雑草の茎葉部をねらって散布する。
- 発芽前雑草に対して残効性が劣るので、砂土の土壌処理には使用しない。
- ヒユ科、アカザ科、カヤツリグサ科雑草及びザクロソウ、ツユクサ、ギョウギシバの雑草の優占圃場では使用しない。
- 時期を失しないように散布する。
- ほうれんそうには、決められた使用時期内で、雑草の発生前～発生始期に散布する。
- さとうきびには展着剤は使用しない。また、葉に一時的に黄化・白化が生じることがあるので、必ず所定薬量を守る。
- 牧野・草地には次の注意を守る。

○全面散布で薬量が多い場合には、牧草（オーチャードグラスなど）の茎葉部が一時的に黄化することがあるので必ず所定薬量を守る。
○夏期（7～8 月中旬）のギシギシ類対象の全面散布はさける。
○散布後 14 日間の放牧及び採草は行わない。
○北海道での秋期散布は最終採草後に行う。
○局所散布した周辺の牧草は飼料にしない。

●桑には次の注意を守る
○全面散布の場合、桑葉のある時期は使用をさけ、桑の発芽前または夏（春）切り後に土壌表面に均一に散布する。
○部分的に多量に散布しない。
○多年生雑草を主対象に生育期に局所散布する場合は、雑草の茎葉に散布する。
○根からの吸収による薬害をさけるため、高濃度液散布はなるべく雑草の茎葉から薬液がしたたり落ちないように雑草の大きさや密度により散布液量を加減し、茎葉だけに付着するように散布する。

●造林地の下刈りには、次の注意を守る。
○すぎにかからないように注意して散布する。
○農作物にかからないよう農耕地の近くで散布する場合はなるべく風の弱い日に散布するなど薬液を飛散させないように十分注意する。

●畦畔には次の注意を守る
○のり面への散布は避ける。
○稲などの農作物にかからないように圧力を下げた噴霧機などで十分注意して散布する。
○薬剤が水田に飛散・流入しないように散布する。

●公園、庭園等に使用する場合には次の注意を守る。
○石を汚染することがあるので、霊園、墓地等では使用しない。
○散布薬液の飛散あるいは本剤の流出に十分注意して散布する。
○水源池等に飛散・流入しないように十分注意する。
○激しい降雨の予想される場合は使用をさける。

安全使用上の注意

●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理する。
●散布時は農薬用マスク、手袋、長ズボン、長袖作業衣などを着用する。
●眼に入らないように注意。眼に入った場合は、直ちに水洗する（弱い刺激性）。
●作業後は手足、顔等を石けんでよく洗い、うがいをする。
●公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
●残薬は必ず安全な場所に保管する。

保管…密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼な所。

〇飲めません。
〇有効年月内に使用する。
〇体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取り扱い及び作業をしない。